

(3) 骨材

新潟県

記事提供：(一社)新潟県砂利碎石協会

新潟県における令和5年度10月～12月期の骨材需給は、一部地域において前年の反動による増もみられたが、全体的には、需要の下げ止まりに加え、冬季の落ち込みもあり、低調な状態が続き、県計では、対前年同期比で、出荷量で7%減、生産量は6%減となった。

地区別に前年同期比を見ると、上越地区では、出荷量は21%減、生産量で20%減、中越地区は、出荷量が10%減、生産量で14%減、下越地区は、出荷量で1%減、生産量で6%増、佐渡地区は、出荷量で、15%増、生産量で36%増となった。

富山県

記事提供：富山県土石業協同組合連合会

富山県における令和5年10月～12月期の骨材の需給は、前年同期に比べて、県全体では出荷量は14%減、生産量は8%減と、出荷量、生産量とも前年度を下まわった。また、前期(令和5年度7月～9月期)比では、出荷量は9%増、生産量は17%増と、出荷量、生産量とも前期を上まわった。

地区別の前年同期比では、東部地区は出荷量が30%減、生産量が18%減、西部地区においては出荷量が1%増、生産量が増減なしとなった。

12月末在庫量は、前期末(令和5年9月末)より、東部地区では4ポイント増に、西部地区では2ポイント減に、県全体では2ポイント増となった。

石川県

記事提供：石川県骨材協同組合連合会

石川県における令和5年度10～12月期の骨材(県内産)の需給状況は、加賀地区の山碎石で情報提供者が増加したことにより前年同期と比べて11%の増加となり、結果的に4期連続の増加となった(実質的には約8%減)。また、能登地区は能登半島地震の影響により情報の提供がされなかったため、出荷・生産ともにゼロとした。よって加賀地区の出荷量の数値が、そのまま県計全体の数値となった。

その今期の出荷量の内訳を見ると、加賀地区については、主要生産地である手取川扇状地産の陸砂利と川砂利は、その主要な需要先である生コン業者向けの出荷において、大口需要の金沢地区が今期も低調な状況にあり14%の減少となった。一方、南加賀地区は今期も回復基調が継続し、前年同期比で30%の増加となった。また前期よりマイナスに転じたアスファルト合材業者向けの出荷は、今期も振るわず前年同期比で15%の減少となった。以上を総じて、今期の加賀地区における手取産陸砂利と川砂利の全体の出荷は、前年同期比で1%の減少となった。

なお路盤材を主体とする加賀地区の山碎石は、前述の通り今期から情報提供者が増加したことにより、前年同期比で46%の増加となった。

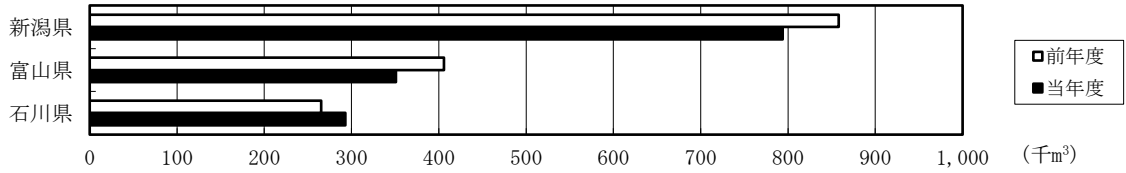
一方、能登地区(山碎石)については、能登半島地震の影響により情報の提供が得られなかったため、今期はとりあえず出荷・生産ともにゼロとした。この地区の地場産業者の経営環境は、これまでも極めて厳しい状況にあったが、更に今回の能登半島地震の被災が重なりそのダメージは計り知れない。

生産量については、加賀・能登地区共に平時は概ね出荷量に合わせた生産体制をとっているが、今期は特に加賀地区で在庫調整が進んだことから、県計では前年同期比で7%の増産に留まった。

在庫量は、加賀地区の陸砂利・山碎石ともに在庫整理が進んだことから、県計全体の前年同期比では16%の減量となった。

第3四半期(R5.4～12月)の累計では、出荷量は県計で前年度と比べて6%の増加となった。また生産量も2%の増産となった。一方在庫量は16%の減量となった。

骨材出荷量の推移（10月～12月期）



(単位：千³、%)

県	地区	区分	令和4年度 年計	令和5年度				累計
				4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	
新潟県	上越	出荷量	▲13 667	9 185	▲27 156	▲21 157	▲14 498	
		生産量	▲13 679	▲1 188	▲29 151	▲20 172	▲17 511	
		在庫量	9 143	▲4 145	▲7 140	▲8 154	▲8 154	
	中越	出荷量	▲3 940	0 225	▲14 262	▲10 252	▲9 739	
		生産量	962	▲10 237	▲17 259	▲14 226	▲14 722	
		在庫量	7 320	▲1 332	▲4 329	▲7 304	▲7 304	
	下越	出荷量	▲3 1,207	▲7 278	▲9 294	▲1 338	▲5 910	
		生産量	4 1,226	▲4 299	▲10 307	6 339	▲3 945	
		在庫量	3 729	4 749	3 763	6 764	6 764	
	佐渡	出荷量	▲23 137	▲24 26	▲11 32	15 47	▲5 105	
		生産量	▲26 131	▲31 25	▲11 33	36 49	▲2 107	
		在庫量	▲12 320	▲20 28	▲19 29	▲3 31	▲3 31	
県計	出荷量	▲6 2,951	▲2 714	▲15 744	▲7 794	▲8 2,252		
	生産量	▲3 2,998	▲6 749	▲17 750	▲6 786	▲10 2,285		
	在庫量	4 1,221	1 1,254	▲1 1,261	0 1,253	0 1,253		
富山県	東部	出荷量	▲5 632	▲10 138	▲13 137	▲30 133	▲19 408	
		生産量	▲7 632	▲19 130	▲20 130	▲18 137	▲19 397	
		在庫量	3 100	▲12 91	▲23 84	0 87	0 87	
	西部	出荷量	▲5 805	▲13 182	▲11 184	1 218	▲8 584	
		生産量	▲4 814	▲7 199	▲16 172	0 217	▲8 588	
		在庫量	31 42	58 60	41 48	31 47	31 47	
	県計	出荷量	▲5 1,437	▲12 320	▲12 321	▲14 351	▲13 992	
		生産量	▲5 1,446	▲12 329	▲17 302	▲8 354	▲13 985	
		在庫量	10 142	6 151	▲8 132	9 134	9 134	
石川県	加賀	出荷量	▲2 920	6 222	2 233	13 293	7 748	
		生産量	0 922	0 218	▲1 231	11 277	3 726	
		在庫量	1 144	▲7 140	▲12 138	▲17 122	▲17 122	
	能登	出荷量	15 15	▲67 1	0 2	▲100 0	▲73 3	
		生産量	29 18	▲50 2	0 2	▲100 0	▲73 4	
		在庫量	50 9	43 10	43 10	0 10	0 10	
	県計	出荷量	▲1 935	5 223	2 235	11 293	6 751	
		生産量	1 940	▲1 220	▲1 233	7 277	2 730	
		在庫量	3 153	▲5 150	▲9 148	▲16 132	▲16 132	

(注)・上段は前年同期との比較

・集計は、新潟県

会員102社のうち102社

富山県

会員86社のうち86社

非会員 1社のうち 1社

石川県

会員21社のうち21社 (委託業者含む)

非会員16社のうち9社

(本データは、陸砂利・川砂利及び山砕石の数量である。)